

2020年度業務実績報告書

提出日 2021年1月20日

1. 職名・氏名 教授・有田広美

2. 学位 学位 博士、専門分野 看護学、授与機関 名古屋大学大学院、授与年月 2014.3

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 成人看護学概論（1単位 15時間 毎年開講）2年次前期、
②内容・ねらい 成人期にある人々の特徴をライフサイクルの視点から捉え、成人期に特有な健康問題を環境や生活習慣など現代社会と照らし合わせて理解する。また、成人看護の対象となる人への支援に有用とされる概念や理論について学習する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 青年期の特徴は学生自身を振り返り、また壮年期は自分の親に聞き取りをするなどしてそれぞれの生活や健康について理解できるように進めている。受け身の授業にならないようにグループ毎にテーマを与え、成人看護に必要な理論についてグループで学習してプレゼンテーションを行う形式を取り入れている。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 緩和ケア論（1単位 15時間 毎年開講）2年次前期、
②内容・ねらい 緩和ケアの概念、緩和ケアを提供するうえで必要な基本的知識と技術を教授する。さらに、残された時間が限られた人とその家族の心理、倫理的課題など事例を基にディスカッションやディベートを活用して患者および家族への看護を探究し、自らの死生観も養う。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 緩和ケアにおいては2年次開講であるため、まだ生や死を身近に感じる体験が少ない。そこで、実際のドキュメンタリーを視聴して、患者および家族の心理、ターミナルケアについてグループワークを通して考えさせている。また、受け身の授業にならないように、グループごとに課題を与え、グループで学習してプレゼンテーションを行う形式を取り入れている。緩和ケアの専門看護師の特別講義を開催している。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 成人慢性看護学（2単位 30時間 毎年開講）2年次後期
②内容・ねらい（自由記述） がんを含む慢性疾患を持つ人々の健康の回復または健康障害を持つ人々がセルフケアを促進し、その人らしい生活を送るための支援に必要な看護の知識と援助方法を学習する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 慢性疾患の病態、検査、看護の基礎知識の講義内容を、それぞれの専門領域を持つ教員、認定看護師、専門看護師による実践的な講義を受けることで知的関心を引き出すように努めている。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 成人慢性看護学演習（1単位 30時間 毎年開講）3年次前期
②内容・ねらい（自由記述） がんを含む慢性疾患を持つ人および運動機能障害を持つ人がセルフケアを促進し、その人らしい生活を送るための支援に必要な看護の知識と援助方法を学習する。また、看護問題の解決に必要な思考プロセスを養う。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 後期の成人慢性看護学実習および療養生活マネジメント実習に向けて、セッション1～2に分け、セッション1ではがん化学療法を受ける患者の事例展開、セッション2では退院支援を必要とする患者の事例展開を行う。昨年は初めての試みとして、8人で退院前カンファレンスのロールプレイを実施した。演習は、個人ワークとグループワークとし、教員3人で3グループずつ受け持ち、少人数指導による学生の個別性に合わせたきめ細かい教育を行っている。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 成人慢性看護学実習（2単位 毎年開講）3年後期
②内容・ねらい 慢性の病をもつ人、または健康を回復する途上にある人とその家族に対して看護が提供できる基礎能力を養う。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 1週目の終わりにはプライマリナースと学生とで看護計画についてのカンファレンスを開催し、実践者から直接指導を得る機会を作っている。カンファレンスでは、対象の全体像や看護上の問題、学生自身が困っていることなどの発表から、自己の課題と学生の学びが最終目標に向かうように指導している。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 療養生活マネジメント実習（2単位 毎年開講）3年後期（2017年新カリキュラム追加）
②内容・ねらい 慢性疾患や機能障害を持つ対象者とその家族の生活や生き方を尊重し、退院後の生活につなげる支援のあり方を学ぶ。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 1週目で退院後の療養生活を視野に入れた看護を実践し、2週目はケアカンファレンスに参加、地域医療連携推進室の見学実習、退院支援を行う上での困難について看護師にインタビュー等を通して退院支援における看護師の役割を理解する。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 成人看護発展セミナー（1単位 毎年開講）4年次前期
②内容・ねらい 既習の緩和ケア論で修得した知識および基礎看護学実習・専門領域看護学実習の体験を活かしながら、緩和・ターミナル期の病状経過に応じた患者・家族の援助を考える応用編である。緩和ケアに関して関心のあるトピックスを自ら調べ、そのテーマに関する文献抄読やディスカッションを行う。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 本年度は開講せず。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 卒業研究（3単位 毎年開講）4年次通年
②内容・ねらい 看護実践を発展させるための看護研究のプロセスを理解し、研究態度を身につける。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 本年度は遠隔授業に伴い、調査実施はせず、研究計画書立案までとなった。研究計画書までとはいえ文献検討、量的研究のアンケート調査項目作成、SPSS統計ソフトの体験演習、また質的研究の分析体験演習など看護研究の進め方を理解できるように工夫した。
①当科目名（単位数） 主たる配当年次等 看護マネジメント実習（2単位 毎年開講）4年次前期
②内容・ねらい 看護組織員の役割・機能、看護師への教育・キャリア支援の実際、組織における患者の安全管理システムの実際の見学を通して、また看護チームの一員としての実習することで看護サービスマネジメントの実際を学ぶ。この実習は、「看護の応用と発展」の科目として位置づけられ、すべての領域実習が終了している時期に行われる。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 今年度はコロナ感染拡大予防のために、病院実習日数を縮小したものの学内実習ではなく現場での対面実習を実施した。これまでどおり、看護部の役割、医療安全や感染予防委員会の役割などの臨床講義を実施し、病棟でどのように部門連携されているか、看護管理者およびリーダー看護師について管理者の役割を学び、さらにメンバーとして実際のケアに参加し、メンバーの役割を学び、組織の一員として看護を提供する事をマネジメントの視点で学んでいる。
①担当科目名（単位数）主たる配当年次等 看護倫理学（2単位 毎年開講） 大学院1年後期
②内容・ねらい 倫理的な意思決定を行うための基礎知識として医療・看護倫理の歴史的背景と倫理に関わる主要な概念について学習する。さらに、倫理調整を行うための方法論を修得する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 今年度は開講せず。
①当科目名（単位数）主たる配当年次等 成人慢性看護学特論（4単位 毎年開講） 大学院1年前期
②内容・ねらい 慢性病患者および慢性病患者を持つ人の特性について、様々な視点から理解を深める。慢性病患者の支援に有効な理論について学び、看護実践に活用できる基礎を修得する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 今年度は開講せず。
①当科目名（単位数）主たる配当年次等 成人慢性看護学演習（2単位 毎年開講） 大学院1年後期
②内容・ねらい 文献レビューとクリティークを通して、成人看護学領域で必要とされる実践および研究課題を探究する。また、研究課題を達成するための研究方法を学び、研究計画書を作成する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 今年度は開講せず。
①当科目名（単位数）主たる配当年次等 成人看護学特別研究（10単位） 大学院2年前後期
②内容・ねらい 特論、演習で学んだ知識を活用し、さらに主体的に研究の進め方について学習し、研究者としての基礎能力を修得する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 今年度は院生は休学したが、復学後にスムーズに研究活動を行えるように遠隔授業を活用して休学中も定期的に研究指導を行っている。
非常勤教育活動
①担当科目名（単位数） 開講学校名 ターミナルケア看護（1単位） 敦賀市立看護大学（看護学科）2018年～
②内容・ねらい 1 終末期医療の概念と現状を理解し告知問題や心理的特徴について学修する 2.緩和的治療とその看護について学修する 3.終末期に出現する症状のマネジメント能力を養い全人的苦痛へのケアについて学修する 4.終末期患者を支える家族への看護について学修する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 DVDをもとに終末期にある患者の精神的苦痛へのケア、家族の心理とそのケア、意思決定を支えるケアについて講義している。
①担当科目名（単位数） 開講学校名 基礎看護学方法論Ⅶ看護と研究（1単位） 福井県立看護専門学校 2020年～

②内容・ねらい 臨床での小さな疑問を研究として解き明かしていく方法論の概要を 15 時間で教授する。リサーチクエスチョンから文献検討し、データ収集方法まで（実際の調査は行えないが）看護研究の進め方のプロセスの理解をねらいとする。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 医中誌検索や質的分析などできるだけミニ演習を取り入れる。
(2)その他の教育活動

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
①著書 (タイトル、共著者の有無（共著の場合は主たる担当箇所または担当ページ）、出版年、出版社名) 【0本】
②学術論文（査読あり） (タイトル、共著者の有無（共著の場合は主たる担当箇所について）、掲載雑誌名（号数）、掲載（受理）年月日） 【0本】
③その他論文（査読なし） 【0本】
④学会発表等 (タイトル、報告学会（大会）名（開催年月日）、共同報告者の有無（共同報告の場合は主たる担当箇所）) 【1件】 *1. Nocturnal sleep characteristics in hospitalized elderly patients using a sensor placed under a mattress、The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, 2020 年 2 月大阪、共同報告（研究の実施全般）有田広美、竹野ゆかりほか
⑤その他の公表実績 「集中治療室で鎮痛・鎮静管理を受けた重症患者の睡眠に関する研究」、有田広美、基盤研究（C）科学研究費助成事業研究成果報告書、2020.7 【1本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績
【学外】 2020 年 4 月～2021 年 3 月 科学研究費助成基金基盤研究（C）新規 研究代表者 【学内】
(3)特許等取得
(4)学会会活動等
看護ケアサイエンス学会 評議員 2020.12～ 石川看護実践学会誌 査読委員

5. 地域・社会貢献活動

①国・地方公共団体等の委員会・審議会（それぞれの名称、業務内容、担当期間）
②国・地方公共団体等の調査受託等（それぞれの名称、業務内容、活動期間）
③（公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加（それぞれの名称と活動内容、活動期間）
④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動（企業名、活動内容、活動期間）
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 （事業名称及び主催・共催者名、活動内容、活動期間）
⑥公開講座・オープンカレッジの開講、社会人・高校生向けの講座（タイトル名、開催場所、開催日時） 福井放送 ラジオ「ユーグレディオ」眠りの不思議について出演（2020.10）
⑦その他（名称、活動場所、活動期間） 福井循環器病院地域医療推進委員 2014 年～現在に至る

6. 大学運営への参画

(1)補職
（職名、期間）
(2)委員会・チーム活動
（名称、期間） 研究等における人権擁護・倫理委員会 ワーキンググループ 2019 年～現在に至る 看護学科入試制度検討ワーキンググループ 2014～2016 年、2019 年～現在に至る カリキュラム検討委員/コアカリキュラムモデル会議 2018 年～現在に至る 学生就職支援委員・学生就職 2019 年～現在に至る 国際交流吉林大学 2018 年～現在に至る 研究科倫理小委員会 2020 年～現在に至る 大学院看護学専攻博士後期課程設置プロジェクトチーム委員 2018 年～2020.10 大学院学生相談 2019 年～現在に至る
(3)学内行事への参加
（行事名、参加日時） 入試説明会 全学ミーティング
(4)その他、自発的活動など
（活動名、活動内容、活動期間）